

いちまる

北九州市立市丸小学校
文責 校長 木下 経之

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文科科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後の効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習の手引きや家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

学力調査結果と分析（A：主として「知識」に関する問題 B：主として「活用」に関する問題）

カテゴリー	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語A	● 物語文や説明文、紀行文など様々な形態の文章に慣れ、読解力の定着を図る必要がある。日々の漢字練習、読書、辞書を引く等の基本的な学習の反復が必要である。
国語B	● 全国平均正答率をわずかだが、上回っている。場面や心情を的確に読み取ることはできているが、その根拠や表現の工夫について自分の考えを持つことができていない
算数A	● 全国平均正答率をわずかに下回っているが、昨年度より上昇している。数量関係や図形の知識・技能に課題がある。
算数B	● 数学的な考え方に基づく説明や理由の記述に関する問題の正答率が低く、無解答率も高かった。立式の理由や友達の考えを説明するなど筋道を立てて記述することを習慣化する必要がある。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要

- ・「朝食をとる」「決まった時間に起きる」など基本的な生活習慣の定着に関しては、全国平均を上回っている。また、「学校に行くのは楽しい」「友達に会うのは楽しい」と答えた児童も全国平均を上回っている。
- ・「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童は全国平均を上回っている。夢や目標を実現させるために、具体的な目標設定を行わせ、行動に結びつけさせる必要がある。また、キャリア教育の充実を推進していく。
- ・「1日当たり、3時間以上テレビゲームをする」と答えた児童が5割近くいて、全国平均を上回っている。
- ・算数の勉強を「大切だと思う」児童は9割を超えているが、半数の児童が算数の勉強が「好きではない」と答えている。新たな問題に挑戦したり、あきらめずに取り組んだりすることに苦手意識を持っている。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○基礎的・基本的な知識・技能の定着

- ・ 1 単位時間の中に「めあて」「まとめ」「振り返り」を位置付けた授業を行う。
(全学年)
- ・ 算数・理科を中心とした T T 授業を実施する。(全学年)
- ・ 過去問題, アシストシートを朝自習で取り組む。(全学年)

○補充学習

- ・ 放課後も学習できる「放課後いちまる塾」を実施し, 学力定着サポートシステムの活用を図る。(4, 5, 6 年)

② 家庭生活習慣等に関する取組

○家庭学習の充実

- ・ 学年に応じた学習時間(学年×10分)及び内容を設定する。
- ・ 教科に応じた予習・復習の方法について, 児童に理解させる。

○メディアとの接触時間の再考

- ・ テレビやビデオ, ゲーム, スマホなどのメディアとの接触時間について, 「親子で学ぶ規範意識」授業や懇談会を通じて周知し, 家庭でのルールを確認してもらう。